

2015年8月



うしくのコミュニティ もっと かっぱつにすっぺ

## 市民とつくる 新しい うしく



少子超高齢社会の到来、経済の低迷、  
グローバル化など、難しい時代を迎えています。  
こんな時代に、暮らしやすいまちをつくるには  
どうすればいいのか。  
牛久市が進めているのは「市民参加のまちづくり」です。  
市民と市が手を取りあって、新しい仕組みを作り、  
さまざまな課題に取り組みます。  
このまちでは市民が主役！  
誰もが主体的に行動し、支え合って暮らしていく！  
その力を握るのは「コミュニティ」のつながりです。  
ご近所づきあいなどの地域コミュニティ、  
各団体などの同好・同志のコミュニティ etc.  
まちを元気にする多様なコミュニティ活動を、  
市はバックアップしています。  
あなたもぜひ、積極的にコミュニティに参加し、  
牛久で大いに力を発揮してください！





地域コミュニティがうしくを元気にする！

新しい  
まちづくりの  
しくみ

# 「小学校区」が 市民と行政をスムーズに結びます

少子超高齢社会を  
「支え合い」で乗り切る

「少子超高齢社会」……現在の日本が抱える大問題。さまざまな課題があり、先行きへの不安が語られています。

だからといって、弱気になってばかりもいけない！ 牛久市では、

この時代を「成熟の時代」ととらえ、「成長の時代」とは別のアプローチで、市民とともに希望のあるまちづくりを進めています。

重要なのは「地域での支え合い」です。若い世代が高齢者を支えるという一方的な意味ではありません。高齢者は支えられるだけの存在ではありません。牛久には元気な高齢者がたくさんいます。高齢者同士で支え合うこともできるし、高齢者が若い世代を支えることもできる。高齢者が子育ての手助けをすることもできる。

こういった支え合いは、人々がつながって、地域コミュニティが活発であればこそ可能になります。ひとりではできないことも、ふたりならできるかもしれない。仲間が集まればできるかもしれない。もともと大勢ならできるかもしれない。それがコミュニティの力。

みんなの力が集まって、コミュニティがつながって、まちは元気になっていきます。

「市民参加のまちづくり」……住民主体のまちづくり……市はそのために新しい仕組みを作ってきました。



▲市民グループのネットワークである「ゆめまちネット」が開催した「ゆめまちメッセ」。赤ちゃん体操コーナーは親子連れに大好評でした。

## 「市政協議会」と 「地区社協」

牛久市には63の行政区があります。以前は行政区単位で地域の問題を市と共有していましたが、大きな課題を解決するためには区分けが小さすぎました。

そこで牛久市が新たに設定したのが「小学校区」という枠組みです。牛久市には小学校が8つ。小学校区は、それぞれの小学校の通学区域の行政区で構成されています。

小学校区は子どもや高齢者にとっての日常生活圏です。親同士も小学

校で顔見知りとなり、問題意識を共有しやすくなります。各小学校区の課題はさまざまです。子育て支援、介護、防災、住民交流……etc.

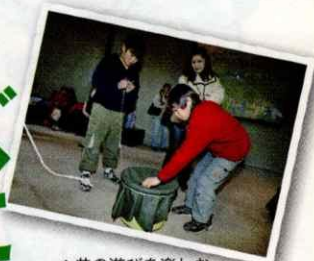
小学校区ごとの課題を検討・解決するために、「市政協議会」と「地区社協（地区社会福祉協議会）」が誕生しました。

「市政協議会」は、市と小学校区が情報を共有し、課題解決に向けて話し合い、対策を練る場です。

「地区社協」は、住民同士が助け合い、力を合わせて地域福祉活動を進めるための拠点です。地域を暮らしやすくするには何が必要か、住民の皆さんが自主的に考え、主体的に参加・協力しています。「市社協」は地区社協の活動をバックアップします。

こういった仕組みや取り組みが生まれてから、ゆつくりと少しずつ成果が上がってきています。活動に参加する人も増えてきています。

（各小学校区の課題及び地区社協の取り組みについては、本誌P8で紹介します。）



▲昔の遊びを楽しむ子どもたち。（ゆめまちメッセより）



▲かっぱ祭りのパレード。仲間と一緒に参加して盛り上げます！写真は体育協会の皆さん。







**コミュニティを通じて、あなたの声が市に届く。**

上の図をご覧ください。皆さんの周りには、ご近所さんがいて、行政区があり、小学校区があり、市があります。あなたの声は、この仕組みの中で、市に届いていきます。生活していて感じることも、問題だと思ふことは、ぜひ身近なコミュニティの中で話題にしたり相談したりしてください。

牛久市は地域コミュニティだけでなく、文化・体育など、さまざまなジャンルでコミュニティ活動が盛んです。ボランティア活動も積極的に行われています。これらのコミュニティがどんなつながりによって、相乗効果も生まれます。（スポーツ+福祉 介護予防など）

活動している皆さんは本当に元気！「人とつきあうから元気でいられる、外に出るから元気でいられる」と多くの方がおっしゃいます。そして新しい仲間を待っています。

人口約8万5千人の牛久市は、規模が大きすぎず、市民と市がつながることが可能なまち。あなたが動けばまちが動く！みんなで「住みたいまち」「住み続けたいまち」をつくっていきましょう。

▼1000人くらい、来場者に振る舞うすいとんに、長い行列が。（ゆめまちメッセより）





# を上回る 「楽しい！」があった

コミュニティで  
活動している方々に  
インタビュー



▲「新一年生引率見守り隊」が二小の1年生を自宅近くまで送り届ける。二小支援は他にも持久走大会安全補助や自習補助、美化活動など。

楽しくなければ  
「地区社協」じゃない！  
楽しいからこそ続いています。



牛久市区長会 会長  
二小地区地区社協 会長  
岩野 忠男さん



二小地区の地区社協では  
テーマ別に、必要に応じて  
やれる人が手を挙げて、  
「この指とまれ」方式で  
活動しています

歩いて着いて行き、自宅近くまで送り届けるんです」  
それは親御さんにとっては安心ですね。

「そうですね。1年生の下校の際は安全を守るために見守りが必要なので、保護者がシフトを組んで行っている地区もあります。二小の場合は、最初の1か月だけ保護者が見守りして、その後はサポーターが担当するので、皆さんに喜んでもらっています。共働きの場合は特に大変ですからね」

岩野さんも、雨が降ろうが風が吹こうが、毎回見守りに参加するそう。子どもたちと仲良しになれて、元気をもらっているという。

「サポーターがたくさんいてくれるからできることです。神谷二区行政区が加わってくれて、ボランティアが一人に増えました。見守りにも多くの人が手を挙げてくれて、本当に助かっています。」

「二小の1年生の下校の見守りを行っています。毎週火曜日、1年生だけで下校する日に、ボランティア30名強が、子どもたちを校門まで迎えに行きます。それぞれ班に分かれて、一緒に

「確かに役を持っている人は忙しいです。けれど、いろんな人と会って仲間ができて、世界が広がる。本当に楽しいですよ。楽しくなければ続かない。楽しいからこそ続いている。楽しくな

60歳代は若い！  
ぜひ早めに地域デビューを！  
ボランティアは楽しいですよ！



ゆめまちネットでは、一昨年「エスカードシネマクラブ」という会員制の

映画上映会を立ち上げ、運営している。「きっかけは市長の一言。『エスカード

もうひとつの大きな取り組みは外出サポート（買い物支援）。

「二小地区は牛久駅に近い地域ですが、山を切り開いて住宅地になったところもあり、坂を上ったり下ったりが容易じゃない。高齢化が一気に進んで、足の問題が出ています。買い物弱者をなくすため、週2日×2回、計4回、バスを運行しています」

バスは駅前のイズミヤさんへ。そこで買い物をする人もいれば、駅前からさらに病院に行くという人も。

車の維持管理など経済的な面は市社協がバックアップするが、運営はすべて地区社協が行っている。運行のコーディネートも車の運転もボランティアさん。

バスに乗るには予約が必要で、連絡を取りあうことから、この取り組みは住民の安否確認にもつながっている。他にもたくさんさんの活動があり、今後の構想もどんどん広がっている。

忙しくて大変ではないですか？

「確かに役を持っている人は忙しいです。けれど、いろんな人と会って仲間ができて、世界が広がる。本当に楽しいですよ。楽しくなければ続かない。楽しいからこそ続いている。楽しくな

ければ地区社協じゃない（笑）」

地域活動は、決して損得ではない。岩野さんは続ける。

「自治会に入っていないことあります。聞いて聞かれることがあります。いいことってなんだろう？ 今すぐメリットはないかもしれない。でも、日々つながっているからこそ、イザとなったとき、お互いに困ったときに助け合える。共助、支え合いですよ。隣近所が知り合いでないと、何かあったときは早く見つけて手を差し伸べられるような、本当に大変なときは専門機関にすぐつながるような、そういう音頭取りを地区社協でやっていきたいですね」

二小地区では運営スタッフを「すまいるサポーター」という。すまいるサポーター募集中です！ できる事を、できる時に力をお貸しください！

## 地区社協とは

地域福祉の活動基盤で二小地区の推進役でもあつて、各小学校区に一つ地区社協が設立されている。住民同士が協力して、自主的に地域の課題に取り組む。P2～3、P8もご参照ください。

▼まちを元気にするには何をすればいいか。ゆめまちネットの皆さんが考え開催したのが「ゆめまちメッセ」。牛久の美しい風景やまちの変遷が見られた。





# そこには「大変」

牛久のコミュニティでがんばっている方々にお話を伺いました。苦労話が飛び出すかと思いきや、皆さんの口から出てくるのは「大変」よりも「楽しい!」という言葉でした! 人とつながる楽しさ、外に出る楽しさ、地域のためにできることをやる楽しさ…。コミュニティ活動を躊躇している方にもぜひ読んでほしいインタビューです。



▲リニューアルした牛久運動公園。細部にお母さんたちの意見が反映されていて、お子さんも利用しやすい。ふわふわドームもあります。

牛久市ボランティア・市民活動ネットワーク（ゆめまちネット）代表  
坂弘毅さん



毎月第4木曜日にエスカートホールで会員制の上映会をやっています。

「家にこもりがちになる高齢者を、まさに引っぱり出すのが目的。そして、映画のあとに買い物したりして、牛久駅前の活性化に一役買いたい。駅前を寂れさせるわけにはいかないです」

今年7月、待望の公園が完成!  
お母さんたちの率直な意見が  
反映された使いやすい公園です

元女ネット委員（H23からH26）、現ひたち野うしく小学校PTA 副会長  
松崎 早苗さん

松崎早苗さんは3児の母。真ん中のお子さんの時に女ネット（じよねっと）委員になり、4年間活動した。

「女ネットは簡単に言えば、お母さんたちの井戸端会議ですね。他の学校のお母さんたちも集まるので、運動会はどうやって? PTA本部の決め方は? パトロールはどんな風に行っている? 今学校で困っていることは? などいろんなことを話します。違っていてビックリすることもあるし、役立つこともたくさんあります」



日常生活で気になっていることや子どもたちの中で起こっている問題など皆で情報共有し考えていきましょう

女ネット委員さんからまた他のお母さんへ、また別の人へ、と口コミでどんどん情報をつなげていく。まさしくお母さんたちのネットワークだ。  
「市長さんが女ネットの活動に興味を持ってくださり、お母さんたち、特に未就学児がいるお母さんたちの意見が聞きたい、と声をかけてくださいました」

ゆめまちネット代表の坂弘毅さんは御年72歳。若々しい外見とパワフルな行動力は、一般的な「高齢者」のイメージとはかけ離れている。

「牛久には元氣な高齢者が多いですね。自分たちはいつまでも元氣だと考えている（笑）。ただ、やはりいつ健康を崩したりするかわからない。そのためにも『支え合い』が大事です」

ゆめまちネットの平均年齢も上がったので若い人に参加してほしいという。

「僕らが思う『若い人』とは、60歳代の人（笑）。男性は、会社を定年退職したら、ぜひ早めに地域デビューして

ほしいですね。新しい仲間もできますよ」

坂さん自身、退職後すぐにボランティアの道に進んだ。会社員時代にアメリカに赴任したときに、ボランティアへの考えが定まったのだそう。

「自然が好きで、すべての国立公園を見て回ったのですが、どこでも定年後の男性がボランティアをしている。レンジャーをやったり、駐車場係をやったり。時間と労力を無償で提供する、アメリカのボランティア精神を感じました」

定年後、「牛久自然観察の森」でのボランティアから始まった坂さんの活

女ネットやPTAでのつながりでお母さんたちが集まり、市長との意見交換会が実現した。

「あるお母さんが、『牛久市には公園がない』とおっしゃったんです。つくばには洞峰公園があるけど、牛久にはそういう公園がないと」

そこからの市長の行動が早かった。運動公園を子どもたちや市民が使いやすい公園に改修することになった。

「設計段階で、市は何度も私たちの意見を聞いてくれました。皆、遠慮なく発言しました。駐車場がもっと近いほうがいいとか、子どもの足ではトイレが遠すぎるとか。お母さんならではの、子どもを気遣った意見がたくさん。小さい赤ちゃんを連れて、何時間も参加した人も!」

市の担当者にとってすんなり受け入れられる意見ばかりではなかったが、「使いにくい公園を造ったら、結局行か

動は、それから、景観まちづくりネットワーク、地区社協、ゆめまちネット…と、どんどん広がっている。

「つながりができると面白いですよ。いろんなことができます。好きなことをやっているの、楽しいです。元氣でいられます!」

## ゆめまちネットとは

牛久市を拠点にしているあらゆる分野のボランティア及び市民活動団体などが、ゆるやかにつながり、お互いの資質を高め、かつ、協働活動を行うことを目的としたネットワーク。意欲的な会員によって運営され、新しいまちづくりへの一助となっている。

## 女ネットとは

茨城県のPTA連絡協議会に設置されている「女性ネットワーク委員会」のこと。各校のPTAに女ネット委員を2名ずつおき、「市町村女ネット」「各地区女ネット」「県女ネット」と組織ができていく。女ネットの役割は「女性の視点でとらえた情報をクチコミで広めること」。委員がどうにか関わらず、各PTAを通して、女ネットや家庭、双方向で情報と活動を共有していく。

「いや、いや、と、お母さんたち一歩も引かず（笑）。子どものために必死です」市長の柔軟で迅速な対応もあり、ついに納得の公園が完成!  
「やりがいがありました! 市長さんや教育長さんとこんなにお話できるなんて思っています!」牛久は距離が近くて、話しやすい雰囲気があります。意見を真剣に聞いてもらえて、本当にうれしいです」





平成18年度に、牛久市文化公演事業の運営を市から受け継ぎました。文化ホールやエスカートホールで年6〜7回コンサートや演劇などを開催しています。満員になるとうれしいですね！

牛久市文化協会 会長  
中村 一雄さん

牛久市文化協会には美術工芸、音楽、舞踊、茶道、華道、園芸、文化など幅広いジャンルの団体が加盟している。その数76団体。加盟団体を15の部門に分けて、それぞれから役員が出る。「役員をやるのが大変そうだから…」と

好きなことをやっているから、  
元気！ 皆、舞台上に上がると  
シャキッとします。



加盟しない団体さんもありますね」と少し残念そうに語る、会長の中村一雄さん。でも会員であればこそそのつながりがたくさんある。「会員で視察研修を行っています。この前は宝塚劇場に観劇に行きました。120名の参加があり、バス3台で行って来ました。代表者の宿泊研修もあるん

です。各団体の代表者は普段なかなか集まる機会がないので、懇親会という意味で、一泊で和気あいあいと過ごそうと。美術館などの文化施設の視察も1〜2か所入れて研修します」各団体がつながって、会員同士が親睦を深めることで、大仕事も協力してスムーズに行うことができる。「秋の市民文化祭を文化協会が中心になって運営しています。以前は文化協会に加盟していないと文化祭に参加できなかったのですが、今は加盟していない団体も参加できます」各団体とも独自に発表の場を持って

▼中村会長が所属する「牛久かつば太鼓」の時のと、盆踊りの太鼓を演奏する「組み太鼓」の二種類が多い。女性会員さんも多い。



カレーを試作中。野菜をすりおろす中澤さん。ナンを作っている吉永さん。すべての子どもが自分でこねることができるよう、小さく分けてまるめる。



うしく土曜カッパ塾 料理指導者

中澤 紀子さん

吉永 由美子さん

1年生から6年生まで、  
みんなが料理に参加できるよう  
レシピを工夫しています



じゃないかな」

澤紀子さんと吉永由美子さんが、料理の試作中。

「普通、家庭科の調理実習は高学年がやりますよね。でも、カッパ塾では1年生から6年生まで参加して料理するので、1年生でもできるように、作り方を工夫しています」

と中澤さん。今度のカッパ塾で作るのはカレー。野菜をすりおろしてキーマカレー風。「まだ包丁をうまく使えない低学年も、野菜をすりおろすことならできるん

土曜カッパ塾の料理教室に参加する子どもは45人。作業台は9つ。学年混合で9班に分けて、全員が何かしらの作業ができるようにしている。他学年同士が協力し合うのも狙いのひとつ。「危なくないように、各班にひとりずつサポーターさんがついて見守ってくれます。レシピ作成や事務処理、会計を担当してくれるサポーターさんもちののおかげでやれているんです」おふたりが、カッパ塾に関わるきっかけになったのは、この学校の保護者である吉永さんが、カッパ塾のコーディネーターさんから「やってみな

い？」と声をかけられたことから。「私ひとりでは自信がなかったのですが、市のヘルスメイトの料理教室で知り合った中澤さんに声をかけました。中澤さんが快く引き受けてくれたので、一緒にやってみようと思ったんです。人と人との縁で、いろいろなことが実現していく。まだまだ試行錯誤の連続だというのが、子どもたちにはこの場も、作るお料理も大人気！「子どもたちが、いろんな話をしてくれます。ここで作った料理を家に帰ってまた作ったとか。うれしいですよ」と吉永さん。中澤さんは、「体験の大切さを感じます。年1回、ソーメンのときは、昆布とかつおでダシをとります。子どもたち、ダシを飲

▼参加する子どもも全員のわくわくが伝わってくる。オリジナルレシピは手書きで作る。



### うしく放課後・土曜カッパ塾とは

【うしく放課後カッパ塾】全小中学校で、児童・生徒の学習支援を行う。対象は小学4〜6年生、中学1〜3年生の希望者。元教員や地域住民、大学生などが指導する。参加費は無料。

【うしく土曜カッパ塾】市内小学校の1〜6年生（希望者）が対象。奥野小、ひたち野うしく小の2モデル校で実施。学習、文化、体験、スポーツ等の活動を提供して、土曜日を豊かなものにするともに、地域とのつながりを深める。体験活動としては、現在、英会話、合唱、料理などが行われている。参加費は無料（材料費のみ）。

んで「おいしい！」と言っていました。手間のかかることだから、家で毎日できなくてもいい。でも、本当のダシの味を一度でも体験したことがあると、きっと違うと思うんですね」子育て・教育に力をいれている牛久市。新しい取り組みであるカッパ塾も、子どもたちにとってなくてはならないものになりつつある。





▲鈴木会長は体育協会・剣道部の一員。子どもの頃にこのまちで剣道に出会った。「師に恵まれました」という。現在、ご自宅にも道場を構え、後進の育成に力を注いでいる。



毎年11月開催の「エンジョイフェスティバル」ではさまざまなスポーツが体験できます。卓球、パドミントン、スポーツ吹矢などが人気。運動経験がなくても大丈夫です。

## 牛久市文化協会とは

昭和48年4月、当時まだ牛久町だったときに、文化振興に熱い思いをもった数団体の人によって創立された。それから42年。加盟団体数は76団体。市民文化祭や自主事業の開催、視察研修、公演事業の主催など、多方面にわたる文化活動を積極的に展開。地域文化の向上に貢献している。

とても楽しそうですね。

「好きなことをやっていますからね。

ただ、どの団体も高齢化が進んでいます。後継者がなかなかいない。幼稚園や小学生のお孫さんを連れて一緒にやる人もいるのですが…。中間層がなかなかいないですね」

確かに、中学生以上になると部活や受験で忙しく、大人になれば仕事や子育てで忙しく、趣味の活動から遠ざかってしまう人も多いかも…。

「ちよつと仕事や子育てが落ち着いて、何かやろうかな、って思ったときに、ぜひ始めてほしいですね。40代、50代で始められる方も多いですよ」

初心者でも大丈夫でしょうか？

「団体によるかもしれませんが、誰でも最初は初心者ですから（笑）。いくつで始めてもいいと思います」

文化的な活動をしていると、張りができて、元気でいられそうですね。

「やっている皆さんは多かれ少なかれ

生涯スポーツで体を動かす！  
皆さんにスポーツをやる場を提供するのが目的です。



牛久市体育協会 会長  
鈴木 義隆さん

2020年には東京オリンピック、その前年の2019年には茨城国体が開催される。牛久市内でもますますスポーツへの関心が高まりそうな予感。地元の体育振興と生涯スポーツ社会の実現に向け活動しているのが牛久市体育協会だ。

会長鈴木義隆さんにお話を伺った。

「茨城国体では牛久市でも競技が行われます。公式試合が可能になった牛久運動公園の野球場で軟式野球が、また体育館では空手道競技が開催されることが決まりました。国体でもオリンピックでも牛久の選手にどんどん活躍してほしいですね。」

地元から強い選手が出るのはやっぱりうれしい！牛久からは過去にオリ

「生涯スポーツですね。勝負ではなく、体を動かすことが目的。例えば、リス

元氣だと思えますね。歩いているときはヨタヨタしていても、舞台上立つとシャキッとしますからね（笑）。口では「動けない、ダメだ」と言っているけど、がんばってやっています。舞台上立つために練習するし、体を動かすし、気合も入る。何もやらないと老け込むかもしれない。やっていると健康のためにいい。健康寿命を伸ばしているのではないのでしょうか」

文化協会では牛久市の文化公演事業

ム体操は全身をゆつくりのばしてほくしていきます。激しいものではないので、どなたでもできます。指導者は80歳代の女性です。参加者も増えています、毎日のように練習しています」

フなども人気があるようだ。

「グラウンド・ゴルフは90歳代の方も元気でやっています。60歳が若手です（笑）」

また牛久では「ヘルシーボール」という競技も盛ん。巨大なラグビーボールのような形のボールをバレーボールのように打ち返す。親子連れで楽しんだり、大会で白熱した試合を繰り広げたりしている。

11月の「エンジョイフェスティバル」ではさまざまなスポーツを体験できる。種目ごとに指導者がいるので、好きなところについて教えてもらえる。「人気の「スポーツ吹矢」は、特に激しい動きはありませんが、腹式呼吸を使うので、精神的に落ち着き、姿勢が良くなります」

の運営も行い、年間6〜7回の公演を主催する。

「皆、経験がないので、最初は試行錯誤の連続でした。誰を呼ぼうか、チケット代がいくらならお客さんに入ってもらえるだろうか、など皆で知恵を絞っています。クラシック、演歌、子ども向け、演劇など、なるべくバランスよくしたいと思っています。お客様のアンケートも参考にします。どうぞ、皆さん、足をお運びください」

リグッパというのもある。楽しい音楽のリズムに合わせて体を動かし、脳を活性化させる。こういったスポーツ講習会も盛況だ。

さまざまなスポーツを紹介してくださる鈴木会長。お話を聞いてみると何か運動を始めたくなってくる。

「皆さんがスポーツをやる場を提供しようというのが、体育協会の目的です。どんな出で、体を動かして、元気になるってほしい。寝たきり防止にもなります。昔やっていたスポーツをまた始めて、お子さんやお孫さんと一緒にやるのもいいですよ」

誰もがスポーツを楽しみ、生涯スポーツを続けられるまち。そこはきっと健康長寿のまちでもある。

## 牛久市体育協会とは

昭和48年に発足。現在は加盟団体38団体、加盟会員は2600名を超える。スポーツを通じて生きがいづくりの場を提供し、牛久市のスポーツ振興と生涯スポーツの実現に尽力している。子どもから高齢者の方まで、誰もが参加できるような環境作りを進めている。



地区社協が  
地区の課題に  
取り組んでいます

# 牛久市 8つの小学校区



小学校区はそれぞれに個性があり、抱える課題もさまざまです。高齢化が進んで、住民の交通の確保や見回りが必要な地区もあれば、若い世代の転入が多く、子育て支援や住民交流が求められる地区もあります。多様化する生活課題や福祉課題を解決するため、住民同士が助け合い、力を合わせて地域福祉活動を進めています。その活動基盤となるのが「地区社協」です。各地区社協に、地区の課題と主な活動について伺いました。皆さんも改めて、ご自身の住む地区のことを知り、ぜひ地区社協の活動にご支援ご協力をお願いします！

## 中根小学校区

若い世代が住む新しいまち「ひたち野」地域、農村集落が残る「下根、大中」地域、昭和50年代に移り住んできた「栄西」を含む小野川、圏央道の南側地域で多彩な個性を持つ11行政区で構成されている。

★11行政区住民が共に親睦交流ができるようにしたい。主な活動は ①11行政区の枠を越えた住民交流事業 ②中根小及び下根中が必要とする学校事業のサポート ③見守りを必要としている人を支える事業 ④健康づくり事業、⑤支え合いのまちづくり ⑥防災など。

## ひたち野うしく小学校区

「暮らしやすい。子育てしやすい」と評価の高い牛久市、ひたち野うしく小学校区は、市内でも特に人口が増加、発展している地域。子育て世代が多く転入し、若い世代を中心に核家族が多い。(3行政区)

★新住民世代が多く、隣人大人同士のコミュニティづくりが必要。大人同士の出会い・ふれあいの場作りを進める。小・中学生が多い地域のため、子どもたちを中心として、安心安全に暮らせるまちづくり。ひたち野うしく小を中心に、地域の特徴を理解し合い、災害に強いまちづくりを！

## 岡田小学校区

12行政区で構成。比較的広い地域に、昔から牛久で生まれ育った人が多い行政区と、新住民の行政区がある。

★全行政区で1対1見守り体制を確立した。ホームページの中に子育て支援データベースを構築。小中学校との交流にも力を入れている。市と協働で健康長寿プロジェクトを展開。交通移動支援活動を模索。設立後2年が経過し、行政区や民生委員に依存している部分も多いが、今後は「個人をベースとするボランティア組織」という本来の形で、力強く活動できるようにしたい。

## 牛久第二小学校区

牛久駅西口周辺の国道沿いの商住地と大型マンション、一戸建て住宅団地を含む地域。高度成長時代に首都圏から移住してきた住民が大半を占める。最近実家と同一地域、近隣地域に移住してくる子ども世帯も。(6行政区)

★高齢化・独り暮らし世帯が増加、コミュニティの再生と見守り支援体制の整備が課題。買い物・病院の足の確保のため外出サポート事業を行う。二小との交流活動も活発。三世帯交流を推進。空き家・空地利用や、若年世帯の移住しやすい環境づくりにも力をいれる。

## 牛久小学校区

稲荷川、牛久沼などの自然環境が豊かで、小川芋銭の河童の碑、牛久城跡など文化や歴史を感じさせるスポットや古くからの集落があると共に、昭和50年代に急成長した住宅団地が広がっている。(7行政区)

★「笑顔のまち ふれあいのまちづくり」が理念。地区社協の活動は5周年目が過ぎ、各種事業は230名のすまいるサポーターの協力があって達成できた。地域の皆様に喜んでいただける地区社協を目指す。地域の福祉・防災活動の備えは、日頃から向こう三軒両隣で声をかけ合う「ご近所付き合い」が大切。

## 向台小学校区

比較的新住民が多く、首都圏への通勤者が占める割合が多い。意見が活発。高度経済成長期から大型団地で同世代の人たちが共に子育てや生活をしてきており、子育てを終えた今も親しい付き合いが続く。(6行政区)

★住民相互の交流の場を広げ、行政区の相互交流がはかれるよう努力している。学校に保育園が併設されているので、保育園との交流も大切にしていきたい。地区社協の組織を、総務、住民交流、支援活動、調査・広報、防災活動の5部門に分けて、細部に渡って活動を続けていく。

## 神谷小学校区

6行政区からなり、北は神谷行政区から南は女化行政区と細長い区域となっている。スーパーマーケットなどの商業施設が充実し、住みやすい。近年、人口が減少傾向にあり、児童数も減少。高齢化が進んでいる。

★要援護者・高齢者の支援体制の充実を図っている(日頃の見守り体制作りなど)。高齢者の地域活動への積極的参加が求められている。特に男性高齢者については、会社人間から地域人間に脱皮してほしい。地域住民と児童との交流を増やす活動も行っている。防犯パトロールの強化も。

## 奥野小学校区

奥野小学校区は、農政部11行政区と、県外からの移住住宅団地1行政区の12行政区で形成される。昔ながらの親しい住民交流があり、助け合い、支え合いが自然に行われている。自然豊かで、おいしい農作物が豊富に採れる地域であり、牛久市が目指すスローシティの拠点としても注目されている。

★住民交流のための交通手段が難しい。体験農場で収穫したそばやさつまいもを主に、年1回、「秋そば収穫祭」を実施している。

